

令和元事業年度(第16期)
財務報告2020

Tokushima University Financial Report 2020



国立大学法人徳島大学

目次

本学の理念・目標	2
財務トピックス	3
徳島大学基金について	9
奨学金について	12
クラウドファンディングについて	13
新型コロナウイルス感染症に対する対応	15
財務諸表等の概要	
貸借対照表	17
損益計算書	19
本学の収入について	21
大学病院の財務内容について	22
キャッシュ・フロー計算書	23
業務実施コスト計算書	23
利益の処分に関する書類	24
決算報告書	24
財務指標	25
【資料編】財務データの経年比較	29
【巻末付録】大学への交通アクセス	35
【巻末付録】マスコットキャラクター、コミュニケーションマークについて	36

本学の理念・目標

理念

国立大学法人徳島大学は、自主と自律の精神に基づき、真理の探究と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を承継し向上させ、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する。

目標

【教育】

学生が志をもって学び、感じ、考え、生涯にわたって学び続ける知と実践にわたる体系的な教育を行う。

自律して人類の諸問題の解決に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成を行う。

【研究】

自由な発想により真理を探究する研究を行う。

人類の問題を解決する研究を行う。

研究成果を社会に迅速に還元し、国際及び地域社会の平和な発展に貢献する。

【社会貢献】

地域社会と世界を結ぶ知的なネットワークの拠点となり、平和で文化的な国際社会と活力ある地域社会を構築する。

産官学の組織と連携し、社会の発展基盤を支える拠点となり、大学の開放と社会人の学び直しを支援し、地域社会に新産業を創出することに貢献する。



財務トピックス

徳島大学では、「知を創り、地域に生き、世界に羽ばたく徳島大学」を目指して、様々な事業活動を行っています。財務トピックスでは、令和元事業年度における特色ある活動の一部を財務的な視点から紹介いたします。

徳島大学創立70周年記念事業

ホームカミングデーの開催

徳島大学創立70周年記念事業として、令和元年11月2日（土）に徳島大学蔵本キャンパス長井記念ホールにおいてホームカミングデーオープニングセレモニーと記念講演会が開催されました。

オープニングセレモニーでは、本学交響楽団による演奏の後、野地学長の開会の挨拶に続いて、同窓会代表者の紹介と同窓会各キャンパス代表から挨拶がありました。記念講演会では、野地学長が「徳島大学の明るい未来像」というテーマで講演を行い、多くの同窓生や在校生などが聴講しました。

記念講演会終了後には、各同窓会（各学部）において、施設見学会、会食、講演、映画上映などの趣向を凝らしたプログラムが開催され、同窓生は旧交を温めあうとともに、世代を超えた交流をして楽しい時間を過ごしました。

創立70周年記念大学祭として「第35回徳島大学蔵本祭」と「第67回徳島大学常三島祭」も同時に開催され、各学部、各サークルの趣向を凝らした催し物、学部研究室の一般開放、地域の人々と学生の集いや地域社会との交流など、全学挙げての多彩な祭典が繰り広げられました。



会場



交響楽団による演奏



野地学長による講演

創立70周年記念講演会の開催

令和元年11月3日（日・祝）、徳島市内のホテルにおいて、徳島大学創立70周年記念講演会を開催し、学生、同窓生、地域住民の方、学内関係者等、約400名の方にご参加いただきました。

野地澄晴学長による開会の挨拶に続き、第1部では、「“Beyond The TOKYO”腰痛治療最前線～徳島からこの技術を全国に～」と題して、本学大学院医歯薬学研究所運動機能外科教授の西良浩一教授より、“Beyond The TOKYO”となるためには何が必要か、また腰部脊椎管狭窄症を対象とした局所麻酔による全内視鏡手術（FED法）について、ご講演いただきました。

第2部では、「あきらめないこと、それが冒険だ」と題して、西良教授の内視鏡による頸椎手術を受けられた、アルピニストの野口健氏より、山との出会い・西良教授との出会いについて、様々なエピソードをまじえて講演いただきました。

参加者の方は、両講師の講演に熱心に聞き入れ、盛況のうちに閉会となりました。



会場の様子



講演する西良浩一教授



講演する野口健氏

お礼（学長メッセージ）

令和2年5月

各 位

徳島大学長 野 地 澄 晴

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび徳島大学が2019年に創立70周年を迎えたことに伴い、様々な新しい試みに挑戦し、よりよい大学組織基盤をつくるため、地域や大学を取り囲む様々な関係者との繋がりを強くできるよう、基金をお願いしましたところ、たくさんのご支援をお申し出いただきました。

おかげをもちまして、予定しておりました、記念式典・祝賀会、記念講演会や美術展、HomeComingDay、創立70周年記念大学祭を実施したほか、「徳島大学70年史」「企業と大学」全17号を発刊できました。いただきましたご支援に対し心よりお礼申し上げます。

記念事業寄附では、現時点で2,181件（個人2,128件、法人53件）434,000,140円のご支援を賜り、各種事業実施後の残金は、徳島大学基金に充当し、大学や在学生の支援・充実に役立てていくこととしており、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、経済的に困窮した学生の修学支援にも充てさせていただきました。

ご支援を賜りました方々は、希望されない方を除き、本学ホームページ及び広報誌「とくtalk」に氏名または法人名を掲載させていただきました。また、徳島大学創立70周年記念事業基金へご寄附賜りました全ての方の氏名、法人名等は「徳島大学創立70周年記念事業基金寄附者芳名録」に記して、学長室に永く保存させていただきます。

昨今、国立大学を取り巻く状況は日々変化するなか、本学はより強固な大学組織基盤をつくるため、キャンパスのICT化や、世界で活躍できるグローバルリーダーの養成、また地域・企業との交流の場づくりなどの様々な事業に取り組んでいます。

今後、30年先(創立100周年)の未来を見据えて、「人・地域をはぐくみ未来をつくる」をキャッチコピーに、大学に関わるすべての方とともに、教職員が一体となって躍進して参りたいと考えています。

つきましては、引き続き本学へのご支援ご鞭撻を賜りますよう、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

敬 具

教育・研究活動紹介

ポストLEDフォトニクス研究所の開所

平成31年3月、徳島大学は最先端の光科学研究に取り組むため、「ポストLEDフォトニクス研究所（pLED）」を新設し、令和元年10月には徳島大学常三島けやきホールにおいて開所記念式典とキックオフセミナーを挙行了しました。

pLEDでは、次世代の光として期待される「深紫外」「赤外」「テラヘルツ」という目に見えない領域に照準を合わせた実用的な光源開発と応用開拓、また、医学と光科学の異分野融合研究による新しい医療手法の開発に取り組んでいます。

徳島大学が伝統的に強みを有する光科学研究をさらに発展させるとともに、平成30年度から開始した内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」に事業採択された徳島県「次世代“光”創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画（次世代ひかりトクシマ）」の中核機関として、超高齢化が進み、人口減少が進む徳島の課題解決のため、光科学を基盤とした様々な研究開発・産業振興に貢献してまいります。



キラリと光る地方大学となるために【研究機能強化】

研究機能強化 「ポストLEDフォトニクス研究所」の設置

- 「新しい光の創出と応用」をキーワードに、徳島大学が有する次世代フォトニクス研究の強みを更に強化
- 従来の可視・近赤外光を中心としたフォトニクスの利活用を、短波長側は深紫外光、長波長側は赤外光コムからテラヘルツ波まで拡張し、創造的超高齢社会の実現と地域産業振興に貢献する先進的研究開発



徳島大学

ポストLEDフォトニクス研究所

理化学研究所 世界トップレベル研究機関 電気通信大学

生物資源産業学部農場に先端畜産システム開発施設が完成

国内有数のプロバイオティクスメーカーであるミヤリサン製薬株式会社様より、生物資源産業学部農場に「先端畜産システム開発施設」をご寄附いただき、令和2年2月に完成記念式典を行いました。

この施設を活用して、アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した次世代型畜産システムの研究や実証実験等が行われ、生産性やブランド力の高い畜産経営モデル構築事業を推進します。

また、生物資源産業学部農場と徳島県立農林水産総合技術支援センターを中核として形成する「アグリサイエンスゾーン」での教育・研究活動を活性化させ、次世代の畜産や6次産業化人材の育成等を行い、徳島県における畜産の成長産業化及び関連産業の振興に取り組んでまいります。



生物資源産業学部農場で生産したハムを地元に贈呈

令和2年9月、生物資源産業学部生物資源産業学科生物生産システムコースの学生が徳島県名西郡石井町役場を訪れ、小林智仁町長へ農場で生産したハムを贈呈しました。

このハムは、ミヤリサン製薬株式会社様からご寄附いただいた豚舎（先端畜産システム開発施設）で飼育された豚を食肉加工研究室で加工したもので、豚の飼養から加工までを学生の手で行い完成した試作品の第1号です。

生物生産システムコース4年次の小浦孝修さん、橋本託真さん、増田 諭さんから、独自の豚の飼養方法や食肉加工の手順、自身の研究の内容等についてプレゼンテーションを行った後、小林町長へハムを手渡しました。小林町長からは、「チャンスは様々なところにある。若い力を生かしてチャレンジしてほしい。」との激励の言葉をいただくとともに、試食したハムの完成度を高く評価いただきました。

農場で育ったブタを原料にした食肉加工品には、地域からも大きな期待がかけられており、6次産業化の実践などこれからも積極的に取り組んでまいります。



左から小林町長、小浦さん、橋本さん、増田さん



“徳大ハム”の試作品（約1.0kg）

本学教員が防災功労者として内閣総理大臣表彰を受賞

本学の中野晋環境防災研究センター長がこのほど、令和2年度防災功労者として内閣総理大臣賞を受賞しました。中野センター長は、「リスクマネジメント」、「地域防災学」及び「沿岸域工学」を専門に先進的な研究や教育に取り組んでいるほか、徳島県の多くの委員会等で中心的役割を担い徳島県の防災・減災対策に係る各種計画等の策定に携わるとともに、防災思想の普及や防災人材の育成でも県内の第一人者として指導的な役割を果たしています。津波災害に関連する沿岸域工学のスペシャリストであり、かつ、地域における防災において重要な「自助、共助、公助」全てのバランスを持ちながら、防災思想の普及や人材育成に積極的に取り組んでおり、徳島県の防災・減災体制の整備に多大な貢献をしていることが評価されました。



「地域貢献度」ランキングで全国総合3位に

日本経済新聞社が全国755国公立大学を対象（548大学回答）に、大学が地域社会にどのような貢献をしているか調査した、「地域貢献度」の総合ランキングにおいて、本学は、前回調査（2017年度）の第15位から、**第3位**に上昇しました。

本調査は、「大学の組織、制度」、「学生、住民」、「企業、行政」、「グローバル」、「働く場としての大学」の各分野ごとの回答が点数化され、その合計点数でランキングが作成されました。

本学は、そのうち、「大学の組織、制度」が第1位、「学生、住民」が第6位、「企業、行政」が第4位、「働く場としての大学」が第7位と5分野中、4分野で高いランキングとなっています。

なお、今回の調査結果は、令和元年10月発行の「日経グローバルNo.374」に掲載されました。

総合ランキング上位校の順位変動

2019（今回） 総合ランキング	大学名	2017
1	信州大学	2
2	大阪大学	1
3	徳島大学	15
4	島根大学	18
5	名古屋市立大学	15
6	宇都宮大学	22
7	立命館大学	4
8	金沢大学	6
9	琉球大学	41
10	熊本大学	21
10	鹿児島大学	3

2019総合ランキング上位校の分野別の順位

大学名	組織・制度	学生・住民	企業・行政	グローバル	働く場
信州大学	1	1	3	29	1
大阪大学	1	4	1	1	356
徳島大学	1	6	4	41	7
島根大学	1	1	29	68	7
名古屋市立大学	1	1	6	109	109
宇都宮大学	42	4	26	41	1
立命館大学	33	14	20	2	279
金沢大学	1	9	41	29	7
琉球大学	1	9	14	41	43
熊本大学	1	20	14	14	43
鹿児島大学	42	7	14	68	7

大学病院の活動紹介

人工膝関節手術に支援ロボット導入

徳島大学病院に、全国で6例目、国公立大学病院では初めてとなる人工膝関節ロボット・NAVIO（ナビオ）が導入されました。

人工膝関節手術でのロボット支援システムは、術者が患者ごとに個別に考えた計画を支援するために作られており、一貫性の高い正確な手術を達成することを目指したシステムです。

ナビゲーション技術を応用し、専用の骨切除ガイドにロボット支援のハンドピースを使用することにより、患者が従来以上に手術後の満足度の高い生活を過ごすことを目指した技術となっております。

ロボットは、赤外線カメラを用いることで膝の関節や靭帯の構造、形状を把握し、膝の骨を掘削する際も、削る位置や深さを測定する動作を自動でナビゲーションし、さらに手術中にも患者の関節がどう動くかを分析できます。

ロボットのナビゲーションにより、術者は人工関節の大きさや位置を膝の骨を切除する前に誤差1ミリ以下の範囲に抑えつつ設置できる形状に削ることが可能となります。

本支援ロボットを導入することで、多くの方により良い医療を提供してゆきたいと考えております。



骨の形をなぞることでロボットが3D認識する。



模型を使った手術デモンストラーションの様子



ナビゲーション画像

徳島大学基金について

「徳島大学基金」は、皆様からご支援いただいた寄附金を基金として積み立て、本学の教育・研究等の発展のために使用させていただくものです。

◇基金の種類◇

①教育・研究・社会貢献事業基金

プロジェクト事業や全学的な教育・研究、管理運営、環境整備などへのご支援

②国際交流・グローバル化事業基金

留学、教員の海外派遣など、国際交流事業へのご支援

③修学支援事業基金

授業料等の免除など、学生の修学へのご支援

④学部等支援基金

各学部、研究所の教育・研究や管理運営、環境整備へのご支援

⑤古本募金

不要になった本、CD、DVDを寄贈いただき、そこから得られた収益を基金に充てます

◇主な取り組み◇

①教育・研究・社会貢献事業基金

教養教育の質の向上を図るため、優れた授業を実践し、教育方法及び内容が学生から高く評価された教員を表彰する教養教育賞や学生の勉学意欲向上を図るため、1年次学生の教養教育の成績優秀者を表彰する教養教育優秀学生賞を設けています。受賞者には賞状と記念品が授与されます。

また、研究面では、若手研究者の研究能力の向上を図り、自立して研究できる環境の整備を促進することを目的として学長表彰を行っています。受賞者には学長から表彰と研究支援経費として100万円の支援を行っています。



②国際交流・グローバル化事業基金

本学教員との共同研究等を通じて国際交流及び教育研究の進展に大きく寄与することを目的として、優れた研究業績を有する外国人研究者を招へいする事業を実施しています。

また、博士課程修了者等の若手研究者を短期間受入れて、優れた研究者の養成に貢献することを目的とした事業も実施しています。

更には留学生に対し、就職活動からの就労を可能にできる日本語授業の実践や、地域社会を接点の場とし、学内外の日本人との交流を含めた日本社会と文化の体験学習を実践しています。



③ 修学支援事業基金

修学支援事業基金は、経済的な理由で修学が困難な学生に対して行われる次の事業へ支援することを目的としています。この基金は、意欲と能力のある学生が希望する教育を受けられるようにするために活用されます。

1. 入学料、授業料又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
2. 学資金を貸与し、又は給付する事業
3. 学生の海外への留学に係る費用を負担する事業（注）
4. ティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタントの業務に対する手当等を負担する事業

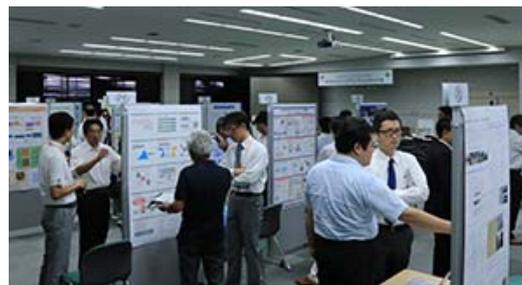
注 「国際交流・グローバル化事業基金」とは別に、経済的な理由で修学が困難な学生を対象に支援します。



④ 学部等支援基金

学部等支援基金は、総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、理工学部、生物資源産業学部及び先端酵素学研究所が独自に行っている教育・研究及び管理運営事業に充てられます。

具体的には、優秀な学生を対象とした表彰・奨学金事業制度、国際交流活動の支援、学習資料の充実、教育・研究環境の整備、地域とのイベントや共同事業の推進等に基金を活用させていただきます。



【基金の活用例】エンジニアリングフェスティバル（理工学部）

⑤ 古本募金

学生がパソコンで学習できる教材として、学生用電子書籍の定期的な購入を進めています。オンラインにより、自宅や実習先から利用ができ、来館が難しくても利用が可能となります。

また授業やプレゼンテーション、学生協働によるワークショップ活動のために必要な、視聴覚設備の更新を行っています。



◇寄附のお申し込み◇

- ◇一口千円とさせていただきます。（複数口のお申し込みを歓迎します。） ※古本募金除く
- ◇インターネットでのお申し込みも可能です。
- ◇ご寄附に対しては、税制上の優遇措置を受けられます。

◇遺贈によるご寄附◇

未来に向けて学術・研究に挑戦し、人類社会、地域社会の永続的発展に貢献するとともに、希望に満ちた若者の確かな成長を実現させていく徳島大学をご支援願いたく、遺言によるご寄附（遺贈）、相続財産のご寄附の仕組みを整えております。

ご寄附に対しては、相続税が免除されます。

基金に関するお問い合わせ

徳島大学基金事務局（担当：総務部同窓生・基金室）

TEL:088-656-9981

お申し込み手続き、税制上の優遇措置に関するお問い合わせ

徳島大学財務部資産管理課

TEL:088-656-7037

今後より一層、徳島大学に温かい御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

詳しくはこちら→ <https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/>



奨学金について

◇奨学金の種類◇

●徳島大学国際教育研究交流資金

平成元年度から、阿波銀リース株式会社様、株式会社阿波銀行様、四国化工機株式会社様、日亜化学工業株式会社様及び日本フノン株式会社様のご厚志により贈られた寄附金を原資として、本学常三島地区に在学する外国人留学生（学部学生及び大学院生）を対象に、外国人留学生の勉学意欲を高めるため、支援を行っています。**令和元年度は、延べ12名に334万円を支援**しました。

●藤井・大塚国際教育研究交流資金

昭和63年度から、一般財団法人藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会様、大塚製薬株式会社様及び株式会社大塚製薬工場様のご厚志により贈られた寄附金を原資として、本学蔵本地区に在学する外国人留学生（学部学生及び大学院生）を対象に、外国人留学生の勉学意欲を高めるため、支援を行っています。**令和元年度は、延べ32名に1,766万円を支援**しました。

●日亜特別待遇奨学金

平成17年度に日亜化学工業株式会社様のご厚志により贈られた寄附金を原資として「日亜特別待遇奨学金」を創設し、工学部（平成28年度から理工学部を含む。）及び大学院先端技術科学教育部に在学する学生を対象に、**返還義務のない奨学金の支援**を行っています。この奨学金は、優れた学生を受け入れ、経済的な支援をすることによって、学習及び研究に専念できる環境を提供し、21世紀を担う人材を育成することを目的としています。**令和元年度は、延べ41名に3,425万円を支援**しました。

●ゆめ奨学金

平成21年度に「徳島大学ゆめ奨学金」を創設し、博士後期課程に在学する学生のうち全額授業料免除等を受けていない者を対象に**返還義務のない奨学金の支援**を行っています。**令和元年度は、延べ74名に991万円を支援**しました。

●アスパイア奨学金

平成25年度に学生が海外留学する場合の**返還義務のない経済的支援制度「アスパイア奨学金」**を創設し、支援を行っています。**令和元年度は、延べ124名に724万円を支援**しました。

これらの支援によって、学生及び外国人留学生の経済的な負担が軽減され、学業に専念することができ、学生生活の充実及び就職率の向上等に繋がっております。

詳しくはこちら→ <https://www.tokushima-u.ac.jp/campus/scholarship/scholarship.html>



クラウドファンディングについて

本学では、研究者の研究費獲得手段の一つとしてクラウドファンディングプラットフォームを開発し、平成28年11月より、一般社団法人大学支援機構の運営によるOtsucle（おつくる）というサイト名でプロジェクトの掲載と資金募集を行っております。クラウドファンディングは、インターネット等を利用して、研究テーマを社会にわかりやすく説明することにより、広く社会から研究資金を募る仕組みです。

大学の使命である、教育、研究、社会貢献の分野で、研究者や学生が進める研究や取り組みに関するプロジェクトを、分かりやすく専門サイトOtsucleで発表しております。

今後もこのクラウドファンディングに積極的に取り組み、研究費等外部資金獲得の多様化に努めて参りますので、ご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

詳しくはこちら→ <https://otsucle.jp/cf/>



令和元年度に実施したプロジェクトの一部（令和2年3月31日現在）

世界で唯一のミニ腎臓で8億5000万人の腎臓病患者のための治療薬開発に挑む！

支援額 6,617 千円
達成率 132 %
サポーター 166 人



筋萎縮ゼロプロジェクト～ICUの患者さんにもう一度社会復帰してもらいたい～

支援額 2,478 千円
達成率 309 %
サポーター 94 人



痛みやかゆみを伴う赤く盛り上がったきずあと『ケロイド』の原因を解明し、創薬に役立てたい。

支援額 2,451 千円
達成率 245 %
サポーター 42 人



「治療は食事から!」AIで入院患者の食事量を自動判定する栄養管理システムの実現をめざしたい!

支援額 1,997 千円
達成率 199 %
サポーター 55 人



資金獲得後の主なプロジェクト実施状況について

「みんなと共有したくなる。かわいくて、おいしいワッフルを作りたい」！！－私たちのワッフル作りを応援してください－

挑戦者：徳島大学生物資源産業学部3年生（当時）平田愛佳
クラウドファンディング実施期間：令和元年8月9日～9月20日

支援額 623 千円
達成率 103 %
サポーター 64 人



【イベント等への出店】

・「アクアチッタ秋の水辺のパン祭り」

令和元年10月20日

第二倉庫アクア・チッタ 徳島市万代町万代中央ふ頭

・「トモにSunSunマーケット＊創業フェス」

令和元年10月20日

新町・阿波製紙水際公園

・「第67回徳島大学常三島祭」

令和元年11月3日

徳島大学常三島キャンパス

・「アクア・チッタフェスタ2019」

令和元年11月16日

徳島市万代町万代中央ふ頭周辺

・「喜多野安心市」

令和元年12月から定期的に出店

徳島市応神町



【米粉ワッフル商品開発】

定番：鳴門金時・ほうれん草チーズ

新商品：カボチャ、リンゴ、ハロウィーンスイート、ユズ、イチゴ、
スダチ、トウモロコシ



新型コロナウイルス感染症に対する対応 (令和2年9月30日現在)

1. 行事対応

卒業式・修了式	令和2年3月23日に予定されていた卒業式・修了式は中止としました。 なお学位記については、郵送等により卒業生・修了生あてお送りし、学長式辞等については、本学ホームページにて配信しました。
入学式	令和2年4月6日に予定されていた入学式は中止としました。 なお新入生ガイダンスは、ライブ配信システムの活用等により実施しました。
五月祭	例年、新入生を歓迎するとともに、学生の親睦及び地域との交流を図ることを目的に開催していましたが、参加される方の健康・安全を第一に考え、中止しました。
オープンキャンパス	例年、8月に常三島キャンパス及び蔵本キャンパスにて開催されるオープンキャンパスを中止しました。 なお入試制度が転換する年となること、また、より多くの方に徳島大学を知っていただくため、オープンキャンパスWEB版を開設しました。

2. 危機対策及び授業実施等

令和2年2月20日	「新型コロナウイルスに関連した感染症対策」のための危機対策本部を設置
3月27日	本学学生及び保護者あて、令和2年度の授業開始に関する通知文書を発出 学生については4月1日までに徳島県に移動するよう、また4月1日以降はできる限り 県外への移動は避け、検温等の健康管理を行うよう連絡
4月6日	本学学生及び保護者あて、令和2年度の授業実施に関する通知文書を発出 4月15日より、実施可能な科目のみに限定して、WEB環境を用いた遠隔授業を導入する旨、連絡
4月15日	新型コロナウイルス感染拡大を受け、本学の新型コロナウイルス感染症に対する事業継続計画（BCP: Business continuity planning）を策定
8月3日	徳島県における新型コロナウイルス感染者の発生状況を受け、対面授業を取り止め、 原則、自宅での遠隔授業等の実施のみとする

3. 学生支援の取組

①「徳島大学基金事業新型コロナウイルス対策修学支援事業基金」による学生支援

本学では、令和2年5月、新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により困窮している学生への支援の原資とすべく、修学支援事業基金の寄附をクラウドファンディングにて行いました。

本当に多くの皆様にご声援、ご支援をいただいた結果、284名の方から、目標である1,000万円を大きく超える、1,254万円のご寄附をいただきました。

いただいたご寄附は、学生の学びを止めないよう、必要な支援を必要なところへ届けます。

また、支援活動については、随時ご報告いたします。

②日亜化学工業が学生の修学を支援

日亜化学工業株式会社様から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、修学が困難になっている学生に対する支援として、同社から2,000万円、同社役員及び従業員の有志の方々から731万円の支援をいただきました。

本学は、このご支援を活用し、学生が安心して勉学を続けられる環境を整えることにしています。



感謝状を手にする、小川日亜化学工業株式会社代表取締役社長（右）と野地徳島大学長（左）

③徳島大学緊急生活支援金の支給

本学は、新型コロナウイルス感染症の影響により生活に困窮している学生に向けて、社会の皆様からいただいたご寄附を原資として、本学独自の学生支援制度を創設しました。

支給金額を1人当たり3万円とし、これまでに学生3,082人に対して、総額9,246万円を支給しました。

④生活困窮学生への生活支援として食料品等を無償提供

令和2年7～8月、常三島キャンパス及び蔵本キャンパスにおいて、本学生物資源産業学部農場で栽培・収穫した「じゃがいも」・「白米」と、企業やボランティア団体からご提供いただいた「保存水」・「白米」・「アルファ米」等をアルバイト収入等が激減して生活に困っている学生の生活支援として、無償提供しました。

4.地域連携の取組

徳島市民病院へフェイスシールドを納品

令和2年6月、本学学生が設計し、本学イノベーションプラザ及び地域協働技術センター（技術支援部が管理）が所有する3Dプリンターを用いて作製した簡易フェイスシールド40個を、徳島市民病院に納品しました。

徳島県徳島市の内藤佐和子市長から、緊急を要する際に受付等で使用するために必要なものとして本学に依頼があり、本学理工学部4年の前田隼輝さんが、他大学や病院が公開している設計図を基に改良を加え作製したものです。

前田さんは「これはあくまで今後「もしも」の状態になった場合に使用するものであり、今回納品したものが使用されないことを願います。」と話していました。



徳島市民病院の職員へフェイスシールドを手渡す前田さん（右から2番目）

詳しくはこちら→ <https://www.tokushima-u.ac.jp/about/virus/index.html>



■ 貸借対照表

貸借対照表は、決算日（令和2年3月31日）における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

（単位：億円）

資産の部			
	30年度	元年度	増減
土地	448.1	446.1	△ 2.0
建物・建物附属設備	334.0	320.0	△ 14.0
構築物	21.7	20.5	△ 1.2
工具器具及び備品等	80.1	72.0	△ 8.1
図書	26.6	26.8	0.1
投資有価証券	23.4	28.4	5.0
現金及び預金	108.0	87.2	△ 20.9
未収附属病院収入	48.6	49.8	1.1
有価証券	15.0	40.0	25.0
その他	9.9	14.9	5.0
資産の部合計	1,115.6	1,105.7	△ 10.0

国際交流会館の市場価格下落に伴う資産価値の減少により、約2億円減少しました。

知能情報南棟改修等による資産価値の増加を、減価償却が上回ったことにより、約14億円減少しました。

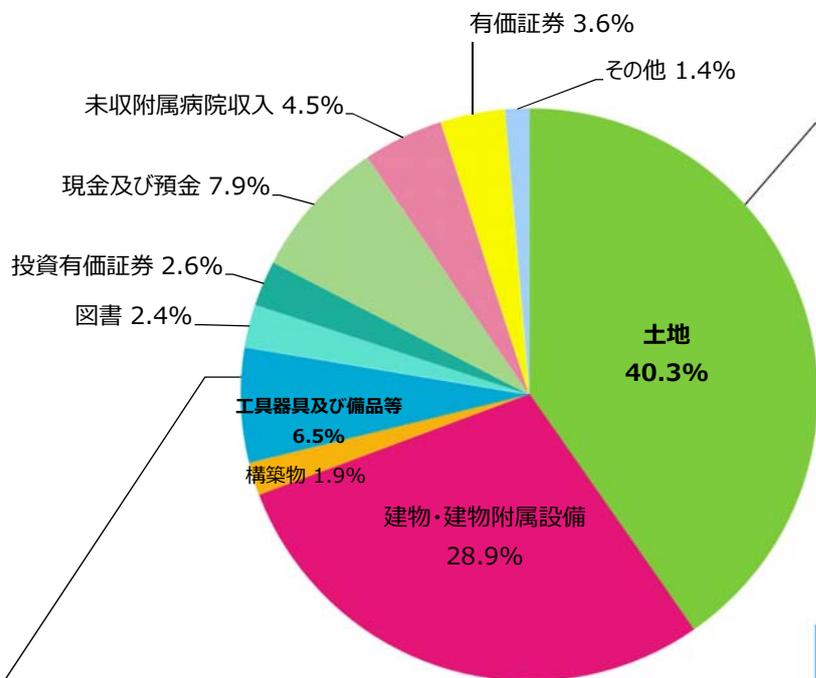
病院医療設備整備による資産価値の増加を、減価償却費が上回ったことにより、約8.1億円減少しました。

満期到来による減少を電力債の購入による増加が上回ったことにより、約5億円増加しました。

有価証券への移替えにより、約20.9億円減少しました。

投資有価証券の満期到来等に伴い、約25億円増加しました。

資産の部



資産の部の約4割を占める土地は、常三島地区、蔵本地区、新蔵地区、その他施設など総保有面積は約37万㎡となっています。

資産合計
1,105.7億円

工具器具及び備品については、教育・研究活動用の実験機器や診療活動用の医療設備などについて整備を行っています。令和元年度は、主なものとして、大学病院の高度医療を提供するための医療設備等を更新しました。

(単位：億円)

負債の部			
	30年度	元年度	増減
資産見返負債	97.0	100.1	3.1
借入金	205.5	190.9	△ 14.5
未払金	81.3	79.0	△ 2.3
運営費交付金債務	8.4	5.1	△ 3.3
寄附金債務	67.2	72.9	5.6
その他	16.7	18.4	1.7
負債の部合計	476.1	466.3	△ 9.8
純資産の部			
	30年度	元年度	増減
資本金	467.3	467.3	-
資本剰余金	76.0	69.0	△ 7.0
利益剰余金	96.4	103.2	6.8
純資産の部合計	639.5	639.3	△ 0.2
負債及び純資産合計	1,115.6	1,105.7	△ 10.0

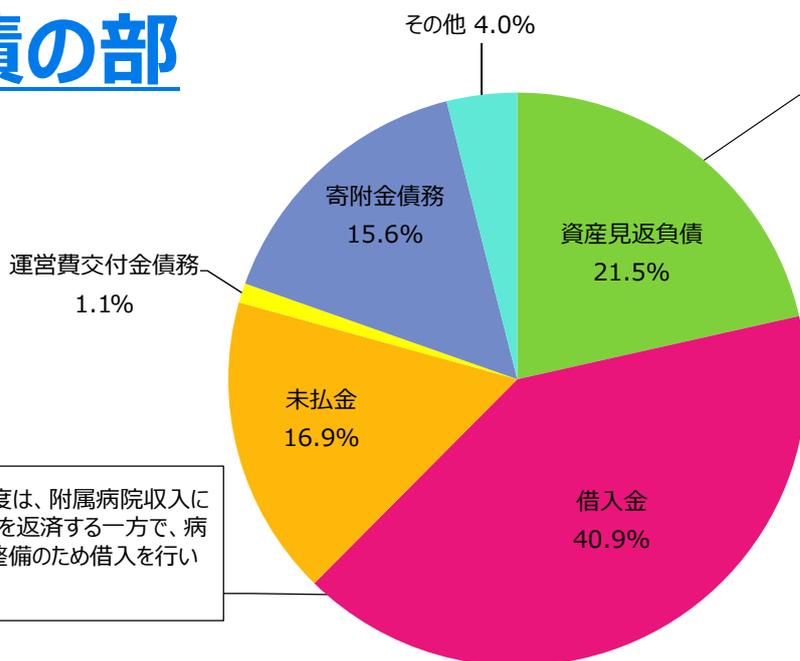
資産取得による資産見返負債の増加により、約3.1億円増加しました。

設備整備に係る新たな借入により約3.6億円増加し、返済により約18.1億円減少しました。

医療機器等のリース債務の減少等により、約2.3億円減少しました。

資産取得による資本剰余金の増加を、減価償却等が上回ったことにより、約7億円減少しました。

負債の部



運営費交付金、補助金など自己収入以外で固定資産等を取得した場合に、財務諸表上、負債として整理されるものです。計上された資産見返負債は、減価償却を行う都度、それと同額を資産見返戻入（収益科目）に振り替えます。

令和元年度は、附属病院収入により借入金を返済する一方で、病院の設備整備のため借入を行いました。

負債合計
466.3億円

純資産の部

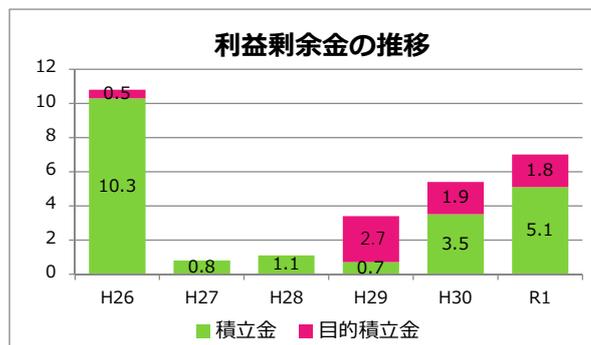
資本金

法人化時に国から出資を受けた資産から負債を差し引いた額を政府出資金として資本金に計上しています。

利益剰余金

大学運営に関連して生み出された剰余金を積み立てたものをいいます。文部科学大臣の承認により積立金、目的積立金に分類され、令和元年度の内訳は、積立金5.1億円、目的積立金1.8億円となっています。(P24 利益の処分に関する書類参照)

(単位：億円)

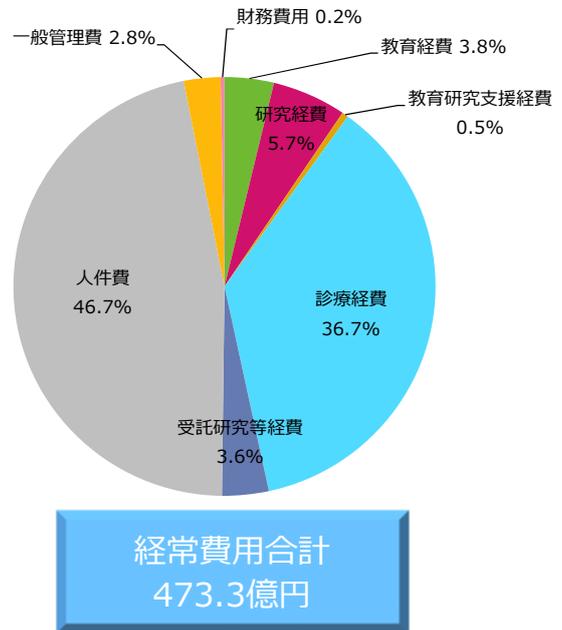


■ 損益計算書

損益計算書は、事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することにより、その運営状況を明らかにしています。

(単位：億円)

経常費用			
	30年度	元年度	増減
業務費	447.0	458.5	11.4
教育経費	17.6	17.8	0.2
研究経費	24.9	26.9	2.0
診療経費	163.1	173.6	10.6
教育研究支援経費	2.4	2.3	△ 0.1
受託研究等経費	20.3	16.9	△ 3.4
人件費	218.8	220.9	2.1
一般管理費	11.7	13.3	1.6
財務費用	1.8	1.4	△ 0.4
経常費用合計	460.5	473.3	12.7
臨時損失			
臨時損失合計	1.3	0.2	△ 1.1
当期総利益			
当期総利益	5.4	6.9	1.5



教育 教育関係経費 約92億円

学生1人当たりの教育関係経費は約123万円だよ
(9,230百万円÷7,508人)



教育関係経費内訳 (単位:百万円)	
教育経費	1,783
教育用資産支出額	231
教育に係る人件費	7,217
合計	9,230

教育経費は、消耗品費の増加により、前年度比約0.2億円増加しました。

研究 研究関係経費 約56億円

研究関係経費内訳 (単位:百万円)	
研究経費	2,692
受託研究等経費	1,693
研究用資産支出額	1,167
合計	5,551

研究経費は、消耗品費及び備品費の増加により、前年度比約2億円増加しました。

人件費 約221億円

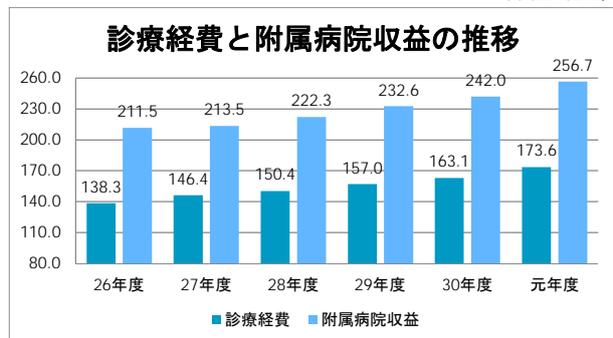
(単位：百万円)

区分	H30	R1	増減
役員	96	121	25
教員	11,269	10,946	△ 323
職員	10,511	11,019	509
合計	21,875	22,085	210

退職手当の増加により前年度比約2.1億円増加しました。

診療 診療経費 約174億円

(単位：億円)



診療経費は、附属病院収益の増加に伴う医薬品や診療材料等の増加により、前年度比 約10.6億円増加しました。

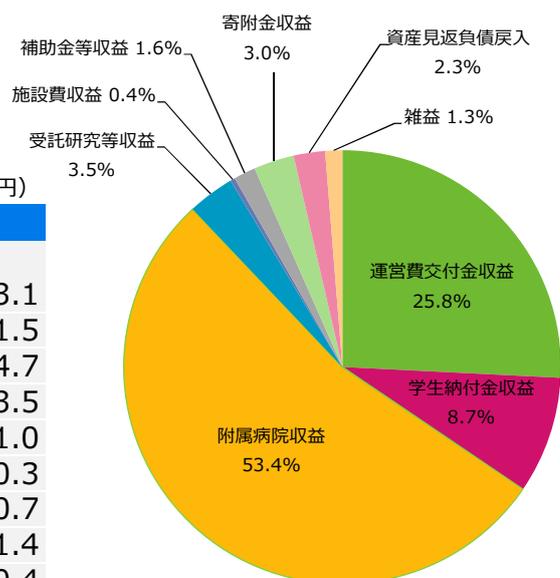
一般管理費 約13億円

(単位：百万円)

区分	H30	R1	増減
消耗品費・備品費	122	157	35
水道光熱費	123	119	△ 4
旅費交通費	52	48	△ 4
保守・修繕費	220	293	73
減価償却費	254	226	△ 28
その他	400	487	87
合計	1,169	1,331	162

経常収益			
	30年度	元年度	増減
運営費交付金収益	120.7	123.9	3.1
学生納付金収益	43.4	41.9	△ 1.5
附属病院収益	242.0	256.7	14.7
受託研究等収益	20.2	16.7	△ 3.5
施設費収益	0.7	1.7	1.0
補助金等収益	7.5	7.8	0.3
寄附金収益	13.6	14.3	0.7
資産見返負債戻入	12.7	11.2	△ 1.4
雑益	6.4	6.0	△ 0.4
経常収益合計	467.2	480.3	13.1
臨時利益			
臨時利益合計	0.0	0.0	0.0
目的積立金取崩額			
目的積立金取崩額	0.0	0.1	0.1

(単位：億円)



経常収益合計
480.3億円

運営費交付金収益 約124億円

運営費交付金収益は、国から措置された運営費交付金について業務の遂行等により収益化したものです。運営費交付金は、以下の3つの基準により収益化されます。

- ・期間進行基準 時の経過に伴い業務が実施されたとみなして収益化
- ・業務達成基準 業務の達成度に応じて収益化
- ・費用進行基準 費用の発生額と同額の業務が実施されたとみなして収益化

学生納付金収益 約42億円

授業料、入学料及び検定料の学生納付金による収益です。

附属病院収益 約257億円

附属病院収益については、外来患者数及び入院延患者数の増加などにより、前年比 約14.7億円増加しました。

受託研究等収益 約17億円

受託研究等収益については、複数年計画の大型研究の終了により、前年度比 約3.5億円減少しました。

補助金等収益 約8億円

補助金等収益については、受入額の増加などにより、前年度比 約0.3億円増加しました。

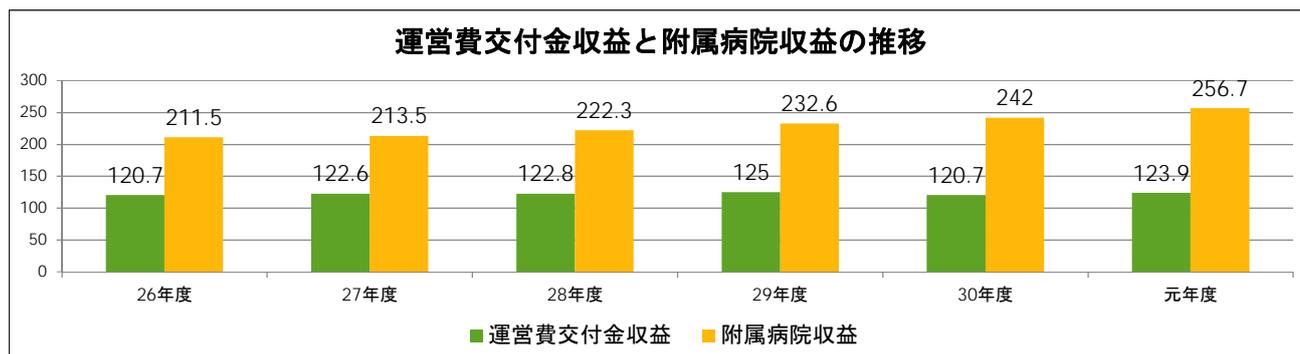
寄附金収益 約14億円

寄附金収益については、受入額の増加などにより、前年度比 約0.7億円増加しました。

運営費交付金収益はここ数年横ばいなので、附属病院収益や受託研究等収益、寄附金収益など運営費交付金以外の収益を増加させることが重要なんだね！



(単位：億円)



本学の収入について

国等からの収入

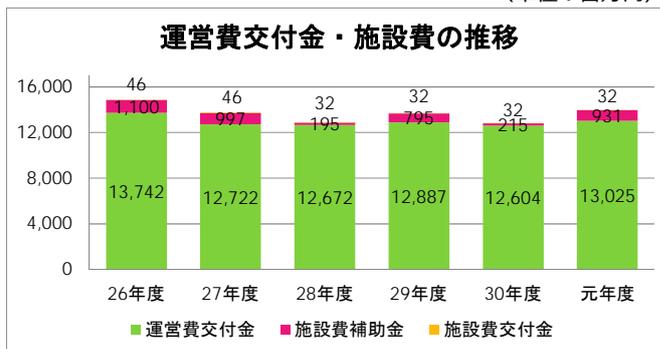
運営費交付金・施設費 約 140億円

令和元年度の運営費交付金は、収入決算額の総額495億3,700万円の26.3%にあたる130億2,500万円が国から交付されました。また、施設費のうち、国の策定する施設整備計画等に基づき交付される施設整備費補助金は、収入決算額の総額の1.9%にあたる9億3,100万円を受け入れ、学内施設の整備等を行いました。

(単位：百万円)

運営費交付金・施設費内訳（決算報告書より） (単位：百万円)

区分	30年度	元年度	増減
運営費交付金	12,604	13,025	421
施設整備費補助金	215	931	716
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	32	32	0
運営費交付金・施設費 合計	12,851	13,988	1,137

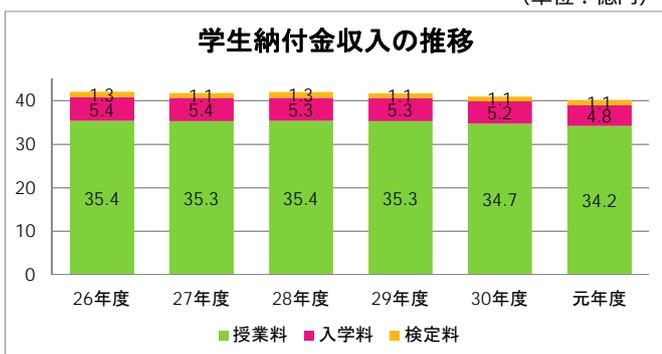


学生納付金

約 40億円

学生納付金（授業料、入学料及び検定料）の単価は、国の省令が定める標準額を踏まえ、各国立大学法人が一定の範囲内で定めており、本学は標準額と同額となっています。令和元年度の学生納付金は、収入決算額の総額の8.1%にあたる40億1,200万円となり、教育環境の充実のために活用しています。

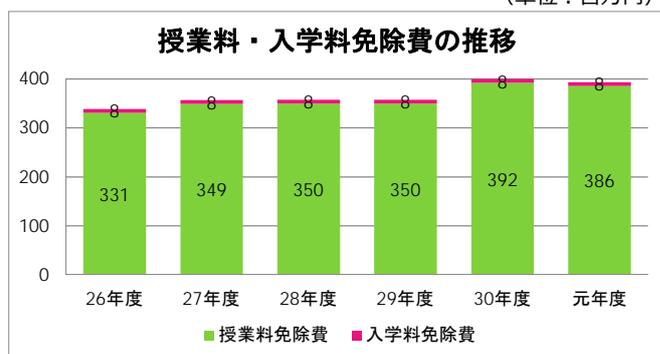
(単位：億円)



授業料・入学料免除制度

経済的理由により授業料や入学料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる学生に対して授業料や入学料を免除する制度を設けています。令和元年度の授業料免除費は3億8,600万円（免除者数1,817人）、入学料免除費は800万円（免除者数48人）となっています。

(単位：百万円)



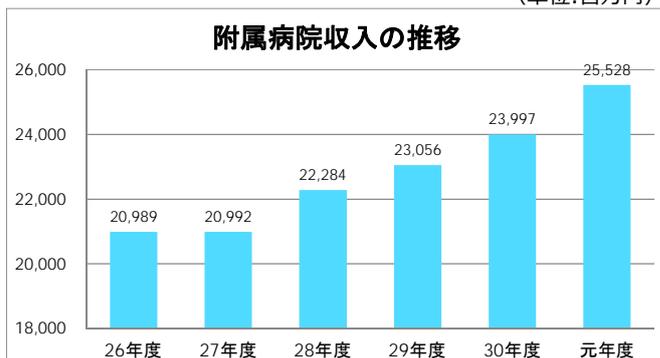
附属病院収入

約 255億円

大学病院は、医科26診療科、歯科10診療科、59中央診療施設等からなり、692の病床を備え、徳島県を中心とした地域の特定機能病院として医学・歯学の両面から高度で先進的な医療を提供しています。

また、地域医療のキーワードである連携、機能分化を念頭に、高い倫理観を備えた医療人の育成、高度先進医療の開発と推進により、地域医療への貢献を果たす「地域に根ざし世界にはばたく徳島大学病院」を目指しています。

(単位：百万円)



※附属病院収入は診療報酬請求額等のうち、令和元年度に収納した額です。

外部資金の受入

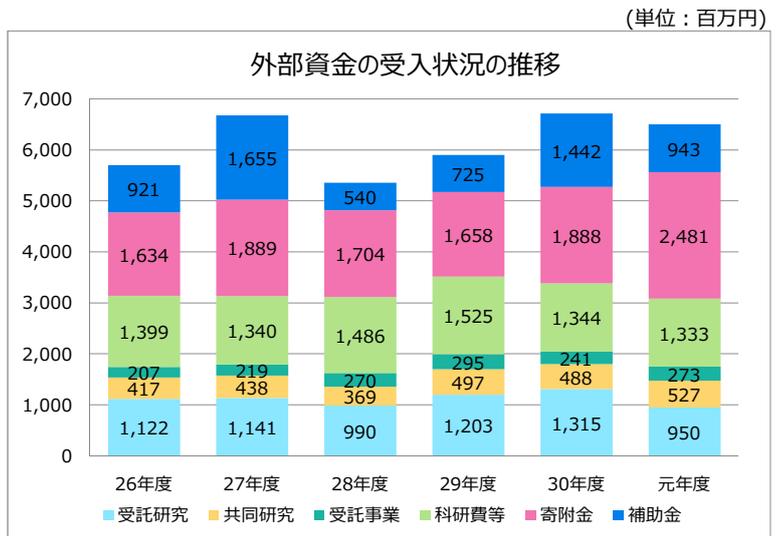
約 65億円

本学では、国・地方公共団体からの受託研究費や皆様からの寄附金等の外部資金を積極的に受け入れています。この資金は、運営費交付金や施設費と並んで本学の教育・研究活動の活性化等のために重要であり、令和元年度は約65億円を受け入れています。

外部資金の受入状況内訳（附属明細書より）

(単位：百万円)

区分	30年度	元年度	増減
受託研究	1,315	950	△ 365
共同研究	488	527	39
受託事業	241	273	32
科学研究費補助金等	1,344	1,333	△ 11
寄附金	1,888	2,481	593
補助金	1,442	943	△ 499
合計	6,718	6,507	△ 211

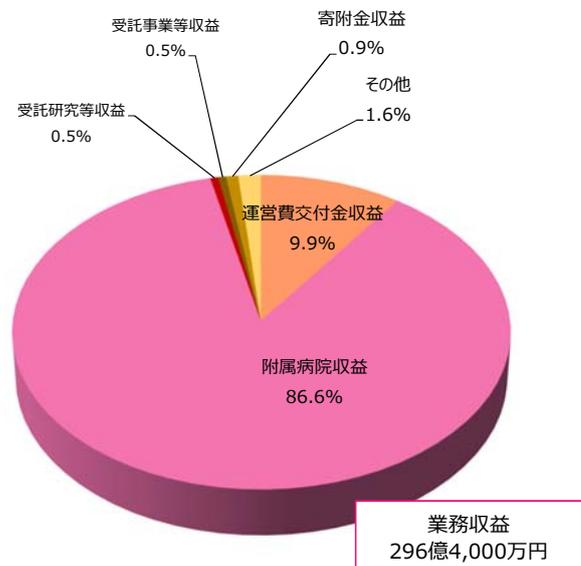
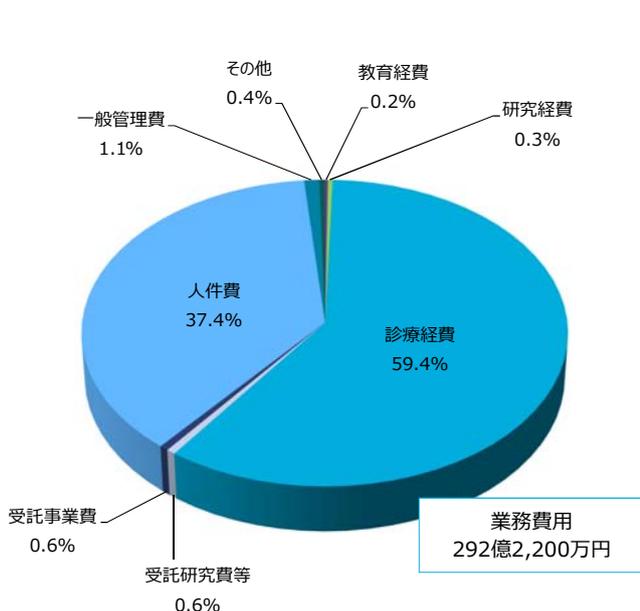


大学病院の財務内容について

大学病院の財務内容

➤病院運営のために要した業務費用は、対30年度比10億300万円増の292億2,200万円となっています。これは、附属病院収益が増収したことに連動して医薬品費等が増えたことによって診療経費が10億5,700万円増加したことが主な要因です。

➤業務収益は、対30年度比10億5,000万円増の296億4,000万円となっています。これは、附属病院収益が、外来化学療法件数の増加等により、14億7,200万円増加したことが主な要因です。



■ キャッシュ・フロー計算書

資金の調達や運用状態を明らかにするため、一会計期間の資金を「業務活動」、「投資活動」、「財務活動」の3つに区分して表示するものです。

(単位：億円)

キャッシュ・フロー計算書				
	説明	30年度	元年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	通常の業務活動に伴う資金の動きを表すものです。	48.3	48.2	△ 0.1
投資活動によるキャッシュ・フロー	資産の取得及び売却等の取引に係る資金の動きを表すものです。	△ 50.5	△ 18.7	31.8
財務活動によるキャッシュ・フロー	資金の調達及び返済の取引に係る資金の動きを表すものです。	△ 18.0	△ 25.3	△ 7.3
資金の増加額（減少額）	当期中の現預金増減額	△ 20.3	4.1	24.4
資金の期首残高	前期末現預金残高	103.0	82.7	△ 20.3
資金の期末残高	当期末現預金残高	82.7	86.8	4.1

■ 業務実施コスト計算書

徳島大学を運営する上で納税者である国民の皆様が負担しているコスト情報を表示するものです。損益計算書に計上している経常費用から自己収入等の収益を控除したものに、損益計算書には計上されないコスト（損益外減価償却相当額、引当外賞与増加見積額、機会費用等）を加味することにより、大学の運営に要した実質的な国民負担額を、より明確に示すことができます。

(単位：億円)

業務実施コスト計算書				
	説明	30年度	元年度	増減
業務費用	国からの財源で賄われているコストです。	132.9	134.6	1.7
損益計算書上の費用		461.9	473.5	11.6
（控除）自己収入等	自己収入等を控除することにより損益計算書における国民負担額を示します。	△ 329.0	△ 338.9	△ 9.9
損益外減価償却相当額	損益計算書に含まれていない国民負担の減少額を示します。	10.8	10.0	△ 0.8
損益外減損損失相当額	〃	0.0	2.0	2.0
引当外賞与増加見積額	〃	0.1	0.0	△ 0.1
引当外退職給付増加見積額	〃	△ 2.0	△ 1.4	0.6
機会費用	国等の資産を利用する際に民間と比べて優遇されたコストです。	0.9	0.9	0.0
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用		0.9	0.9	0.0
政府出資の機会費用		0.0	0.0	0.0
業務実施コスト	業務費の増加により国民の皆様が負担しているコストが増加しています。	142.8	146.2	3.4

(単位：百万円)

国民一人当たりの負担額 約 116円	区分	H30	R1	増減
	業務実施コスト		14,283	14,619
人口（百万人）		126	126	0
国民一人当たりの負担額（円）		113	116	3

【業務コスト合計14,619百万円÷人口126百万人】

資料：「人口推計」（総務省統計局）R1.12.1現在

■ 利益の処分に関する書類

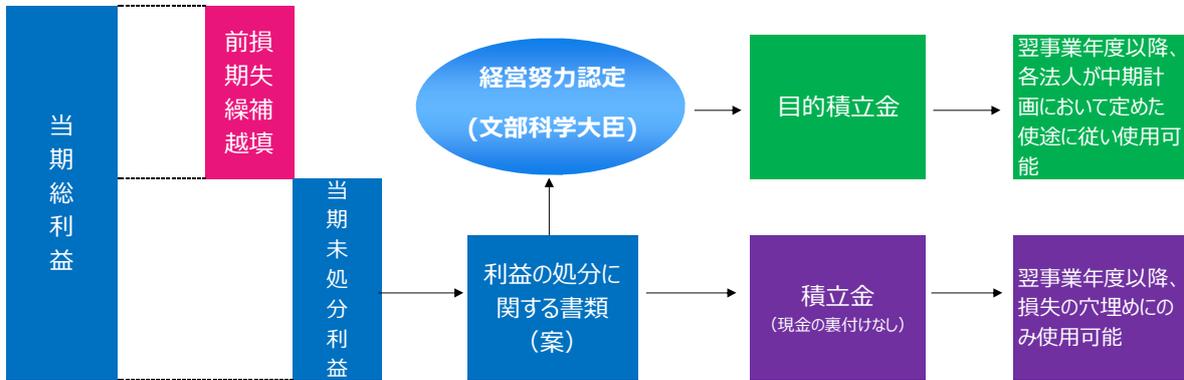
当期に発生した利益を翌事業年度にどのように繰り越すかを明らかにするため表示するものです。当期総利益のうち、現金の裏付けのある利益については、文部科学大臣の承認を得た後、目的積立金として翌事業年度に繰り越し、特定の事業に使用することができます。令和元年度は、当期総利益が約6億9,000万円生じておりますが、約5億1,000万円は国立大学法人固有の会計処理により発生した利益として、積立金に整理され、令和2年度に繰り越されます。現金の裏付けがある1億8,000万円は、目的積立金として文部科学大臣の承認を得た額です。

(単位：億円)

科目	30年度	元年度	増減
I. 当期末処分利益			
当期総利益	5.4	6.9	1.5
II. 利益処分額			
積立金	3.5	5.1	1.6
目的積立金	1.9	1.8	△ 0.1

利益の処分に関する処理（目的積立金制度）

国立大学法人には効率的な運営の結果生じた剰余金を有効活用するための仕組みとして、目的積立金の制度があります。この制度は決算の剰余金のうち現金の裏付けがあり事業の用に供することが可能な額について、国立大学法人の申請に基づき文部科学大臣が経営努力の結果生じたことを承認することにより、目的積立金として翌事業年度へ繰越を可能とする制度です。また決算剰余金のうち、現金の裏付けのないものは積立金として整理されます。



■ 決算報告書

損益計算書は発生主義に基づき作成し、法人業務の運営状況を表す一方、決算報告書は現金主義、かつ、予算の区分で作成され、予算計画と対比して執行状況を表す書類です。運営資金の大部分が国からの財源措置で賄われるため、予算の区分による管理が求められています。

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額
収入			
運営費交付金	12,781	13,025	244
施設整備費補助金	1,116	931	△ 185
設備整備費補助金	-	-	-
補助金等収入	923	943	20
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	32	32	-
自己収入（学生納付金収入、附属病院収入等）	28,351	30,140	1,789
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,198	3,884	687
引当金取崩	-	208	208
長期借入金収入	363	362	△ 1
目的積立金取崩	-	11	11
計	46,764	49,537	2,773
支出			
業務費（教育研究経費、診療経費）	39,167	40,718	1,551
施設整備費	1,511	1,326	△ 185
補助金等	923	920	△ 2
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	3,198	3,238	40
長期借入金償還金	1,965	1,912	△ 54
計	46,764	48,113	1,350
収入－支出	-	1,424	1,424

国立大学法人に関する財務指標は、財務状況を客観的に表示するものであり、大学の活動状況を多面的に理解する上で有効です。

また、本学と同規模大学（※）を折れ線グラフにより比較分析することで、本学の状況を分かりやすく示しています。以下の折れ線グラフでは、**青色が徳島大学**、**桃色が同規模大学平均**を示しています。

※同規模大学とは、医科系学部その他の学部で構成される総合大学で、学生収容定員1万人以上・学部等数概ね10学部以上の大学を除く大学であり、以下の25大学を示します。

- ・弘前大学
- ・秋田大学
- ・山形大学
- ・群馬大学
- ・富山大学
- ・金沢大学
- ・福井大学
- ・山梨大学
- ・信州大学
- ・岐阜大学
- ・三重大学
- ・鳥取大学
- ・島根大学
- ・山口大学
- ・徳島大学
- ・香川大学
- ・愛媛大学
- ・高知大学
- ・佐賀大学
- ・長崎大学
- ・熊本大学
- ・大分大学
- ・宮崎大学
- ・鹿児島大学
- ・琉球大学

※業務費等の基礎データは、文部科学省が集計している各国立大学法人の財務諸表データを使用しています。単位未満の取扱いは、「切り捨て」です。また、各財務指標（%）の単位未満の取扱いは「四捨五入」としています。

※下記①～④の「教育経費」、「研究経費」は、損益計算書（経常費用・業務費）の教育経費、研究経費です。（P19の「教育関係経費」、「研究関係経費」ではありません。）

① 教育経費比率（教育経費÷業務費）

➤傾向

平成29年度以降、教育経費比率は横ばい傾向にあります。



第18位（25大学のうち）

➤指標の読み方 教育経費が業務費のうちどの程度占めるかを表し、比率が高いほど教育活動への比重が高いとされています。

（単位：百万円）



② 学生当たり教育経費（教育経費÷在籍学生数）

➤傾向

学生当たり教育経費は横ばい傾向であり、226千円～260千円の間を推移しています。



第16位（25大学のうち）

➤指標の読み方 学生一人当たりの教育経費であり、金額が高いほど学生にかけられた教育経費が高いこととなります。

（単位：百万円）



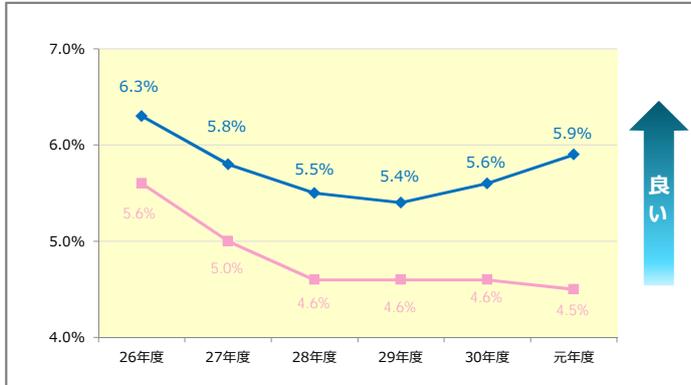
（単位：人）



③ 研究経費比率（研究経費÷業務費）

➤ 傾向

平成30年度以降、研究経費の増加により、研究経費比率は増加しています。



第4位（25大学のうち）

➤ 指標の読み方 研究経費が業務費のうちどの程度占めるかを表し、比率が高いほど研究活動への比重が高いとされています。

(単位：百万円)



④ 教員当たり研究経費（研究経費÷常勤教員数）

➤ 傾向

平成29年度以降、研究経費の増加、退職に伴う教員の減などにより増加しています。



第2位（25大学のうち）

➤ 指標の読み方 常勤教員一人当たりの研究経費であり、金額が大きいほど一人当たりの研究活動で使用される経費が大きい(財務的に研究活動が盛んである)こととなります。

(単位：百万円)



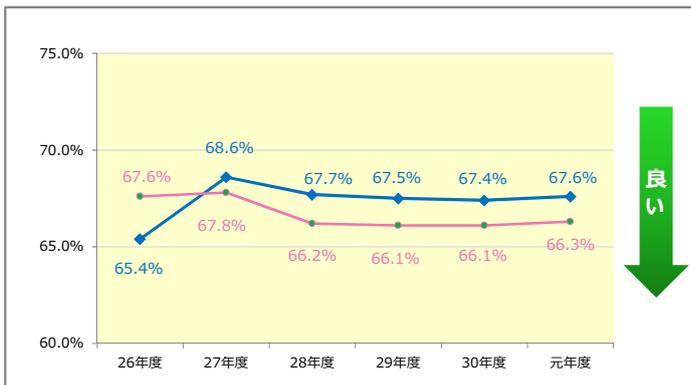
(単位：人)



⑤ 診療経費比率（診療経費÷附属病院収益）

➤ 傾向

附属病院収益の増加に連動し診療経費は増加しています。平成28年度以降、診療経費比率は横ばい傾向であり、67.4%～67.7%の間を推移しています。



第17位（25大学のうち）

➤ 指標の読み方 附属病院収益に対する診療経費の比率を表し、比率が低いほど病院の収益性が高いとされています。

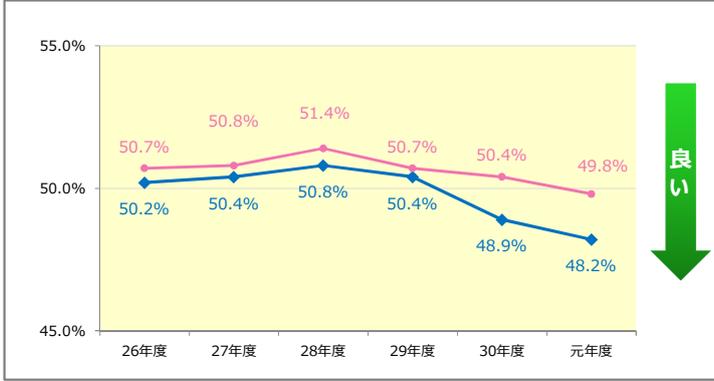
(単位：百万円)



⑥ 人件費比率（人件費÷業務費）

➤ 傾向

平成29年度以降、退職に伴う教員の減などにより、人件費比率は減少しています。



第6位（25大学のうち）

➤ 指標の読み方 人件費が業務費のうちどの程度占めるかを表し、比率が低いほど労働管理の効率性が高いとされています。

(単位：百万円)



⑦ 一般管理費比率（一般管理費÷業務費）

➤ 傾向

一般管理費比率は、環境整備事業等の予算措置状況により増減はありますが、2.6%～2.9%の間を推移しています。



第22位（25大学のうち）

➤ 指標の読み方 一般管理費が業務費のうちどの程度占めるかを表し、比率が低いほど管理運営の効率性が高いとされています。

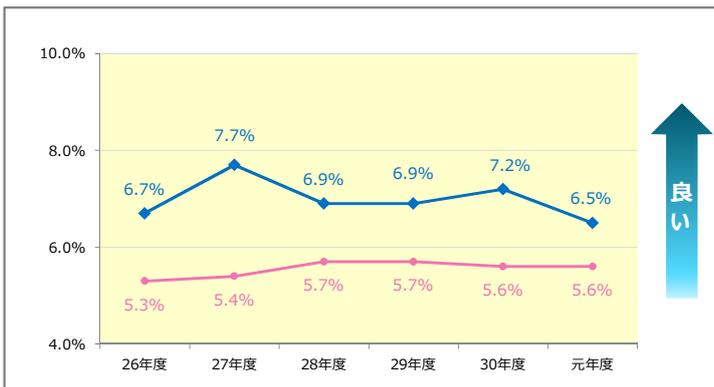
(単位：百万円)



⑧ 外部資金比率 （（受託研究等収益＋寄附金収益）÷経常収益）

➤ 傾向

毎年度の受入額や、翌年度への繰越額の状況により変動しますが、外部資金比率は6.5%～7.7%の間を推移しています。



第6位（25大学のうち）

➤ 指標の読み方 経常収益のうち、外部資金がどの程度占めるかを表し、比率が高いほど資金獲得活動が順調に進んでいるとされています。

(単位：百万円)



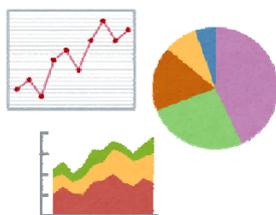
まとめ

徳島大学は他大学と比べて**外部資金の獲得が多い**（6位／25位）ようだね！

外部資金は研究費として使われることが多いから、研究経費比率が高い（4位／25位）ことや、教員当たり研究経費が高い（2位／25位）こととも関係がありそうだね。

業務費のうち人件費の占める割合が低い（6位／25位）のは、労働管理の効率性が高まってきているからだと言えそうだね！

大学の管理運営に要する費用（一般管理費）が多いように見えるけど（22位／25位）、これは平成29年度に病院敷地内に開設した保育園の運営費が、一般管理費に計上されていることが影響しているようだね。



【資料編】財務データの経年比較

貸借対照表（平成26年度～令和元年度）

貸借対照表は、決算日（3月31日）における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

（単位：百万円）

資産の部						
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
固定資産	99,582	101,647	97,258	94,208	93,451	91,776
土地	44,843	44,843	44,843	44,843	44,843	44,843
減損損失累計額	△ 34	△ 34	△ 34	△ 34	△ 34	△ 234
建物	30,813	35,853	35,660	35,598	35,766	35,911
減価償却累計額	△ 7,896	△ 8,744	△ 9,513	△ 10,146	△ 11,016	△ 11,812
減損損失累計額	—	—	△ 81	—	△ 8	—
建物附属設備	22,906	26,096	26,056	26,646	26,855	27,216
減価償却累計額	△ 13,505	△ 14,683	△ 16,002	△ 16,981	△ 18,189	△ 19,314
減損損失累計額	—	—	△ 28	—	△ 5	—
構築物	4,448	4,702	4,786	4,892	5,343	5,339
減価償却累計額	△ 2,307	△ 2,516	△ 2,735	△ 2,945	△ 3,151	△ 3,291
減損損失累計額	—	—	—	—	△ 23	—
機械及び装置	11	13	13	17	15	15
減価償却累計額	△ 5	△ 6	△ 8	△ 9	△ 9	△ 11
工具器具及び備品	30,214	32,202	32,546	32,769	33,921	34,955
減価償却累計額	△ 20,850	△ 22,985	△ 24,525	△ 26,364	△ 26,072	△ 27,894
図書	2,757	2,701	2,643	2,653	2,664	2,677
美術品・収蔵品	49	49	49	49	49	49
建設仮勘定	5,599	65	50	177	—	293
特許権	47	52	33	25	23	23
ソフトウェア	47	116	93	116	94	79
特許権仮勘定	50	34	38	37	23	16
投資有価証券	2,374	3,858	3,349	2,845	2,345	2,841
その他	21	28	22	22	17	72
流動資産	19,418	15,705	15,062	16,726	18,112	18,790
現金及び預金	9,227	7,472	7,406	10,330	10,802	8,717
未収学生納付金収入	47	35	45	42	37	76
未収附属病院収入	4,280	4,620	4,580	4,738	4,870	4,984
徴収不能引当金	△ 6	△ 6	△ 7	△ 6	△ 6	△ 8
未収金	504	663	467	696	463	460
有価証券	4,800	2,500	2,000	500	1,500	4,000
たな卸資産	11	7	6	8	12	13
医薬品及び診療材料	551	393	559	414	427	519
預け金	—	—	—	—	—	—
その他	4	22	6	5	6	29
資産 合計	119,000	117,352	112,320	110,935	111,563	110,565

貸借対照表（平成26年度～令和元年度）

（単位：百万円）

負債の部						
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
固定負債	35,266	35,671	32,916	30,963	31,268	29,450
資産見返負債	12,608	11,789	10,635	9,931	9,701	10,008
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	8,316	7,140	5,990	4,908	3,895	2,960
長期借入金	11,803	13,984	14,021	14,623	14,836	14,191
長期未払金	2,316	2,240	1,753	1,057	2,375	1,869
その他	223	518	517	443	461	423
流動負債	18,565	15,978	14,915	15,652	16,343	17,183
運営費交付金債務	928	0	369	455	836	508
寄附金債務	6,518	6,233	6,303	6,360	6,656	7,288
前受受託研究費等	581	462	384	552	574	654
一年以内返済予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	1,200	1,176	1,150	1,082	1,013	935
一年以内返済予定長期借入金	433	509	609	670	805	1,008
未払金	8,323	7,012	5,440	5,830	5,752	6,027
その他	583	586	660	702	709	764
負債 合計	53,831	51,649	47,831	46,615	47,611	46,633

純資産の部						
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
資本金	46,735	46,735	46,735	46,735	46,735	46,735
政府出資金	46,735	46,735	46,735	46,735	46,735	46,735
資本剰余金	9,455	10,106	9,007	8,501	7,601	6,904
資本剰余金	21,949	23,699	23,798	24,175	24,177	24,613
損益外減価償却累計額	△ 13,493	△ 14,591	△ 15,780	△ 16,670	△ 17,570	△ 18,501
損益外減損損失累計額	△ 34	△ 34	△ 42	△ 34	△ 35	△ 234
損益外利息費用累計額	△ 7	△ 8	△ 10	△ 12	△ 13	△ 15
民間出えん金	1,041	1,041	1,041	1,041	1,041	1,041
利益剰余金	8,975	8,873	8,766	9,111	9,642	10,325
前中期目標期間繰越積立金	3,418	3,418	8,657	8,657	8,657	8,657
教育、研究、診療等積立金	128	—	—	—	263	440
積立金	4,345	5,379	—	110	186	534
当期末処分利益	1,085	77	110	344	536	694
その他有価証券評価差額金	4	△ 11	△ 20	△ 26	△ 26	△ 31
純資産 合計	65,169	65,703	64,488	64,320	63,952	63,932

損益計算書（平成26年度～令和元年度）

損益計算書は、事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することによりその運営状況を明らかにしています。

(単位：百万円)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経常費用						
業務費	40,656	43,010	43,074	44,121	44,704	45,849
教育経費	1,922	2,007	1,771	1,724	1,760	1,783
研究経費	2,573	2,500	2,386	2,379	2,494	2,692
診療経費	13,834	14,635	15,040	15,699	16,307	17,364
教育研究支援経費	262	289	271	240	240	232
受託研究等経費	1,665	1,902	1,735	1,862	2,028	1,693
人件費	20,401	21,677	21,873	22,218	21,875	22,085
一般管理費	1,193	1,190	1,129	1,167	1,169	1,331
財務費用	354	330	298	241	180	139
雑損	0	0	3	2	1	11
経常費用 合計	42,203	44,531	44,504	45,531	46,054	47,328
経常収益						
運営費交付金収益	12,070	12,259	12,282	12,502	12,074	12,387
学生納付金収益	4,389	4,416	4,473	4,403	4,340	4,194
附属病院収益	21,153	21,349	22,231	23,262	24,197	25,669
受託研究等収益	1,665	1,916	1,706	1,828	2,022	1,670
施設費収益	27	31	102	161	73	170
補助金等収益	574	905	516	643	749	782
寄附金収益	1,273	1,519	1,385	1,334	1,357	1,432
資産見返負債戻入	1,766	1,572	1,545	1,344	1,267	1,124
財務収益	7	7	1	1	1	0
雑益	692	552	675	646	640	602
経常収益 合計	43,616	44,526	44,919	46,122	46,721	48,031
経常利益（損失）	1,413	△ 5	415	592	667	702
臨時損失	340	143	515	286	135	20
臨時利益	3	184	28	38	0	0
目的積立金取崩額	—	41	—	—	5	11
前中期目標期間繰越積立金取崩額	9	—	182	—	—	—
当期総利益	1,085	77	110	344	536	694

キャッシュ・フロー計算書（平成26年度～令和元年度）

キャッシュ・フロー計算書は、資金の調達や運用状態を明らかにするため、一会計期間の資金を「業務活動」、「投資活動」、「財務活動」の3つに区分して表示するものです。

(単位：百万円)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
I 業務活動によるキャッシュ・フロー						
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 15,786	△ 16,095	△ 16,348	△ 16,718	△ 18,155	△ 19,291
人件費支出	△ 20,841	△ 21,806	△ 21,951	△ 22,233	△ 22,591	△ 22,228
その他の業務支出	△ 1,029	△ 1,324	△ 939	△ 1,103	△ 1,166	△ 1,162
運営費交付金収入	12,313	11,797	12,672	12,718	12,500	12,356
学生納付金収入	4,214	4,181	4,208	4,172	4,102	4,016
附属病院収入	20,989	20,993	22,284	23,056	23,997	25,528
受託研究等収入等	1,689	1,771	1,603	1,894	2,063	1,862
補助金等収入	1,007	1,511	750	574	1,634	888
補助金等の精算による返還金の支出	0	—	—	—	—	—
寄附金収入	1,355	1,640	1,490	1,428	1,696	2,097
その他業務収入	777	688	859	805	749	717
預り金、預り科学研究費補助金の増減	27	△ 21	51	23	△ 2	32
小計	4,714	3,336	4,678	4,617	4,827	4,816
国庫納付金の支払額	—	—	△ 35	—	—	—
業務活動によるキャッシュ・フロー	4,714	3,336	4,643	4,617	4,827	4,816
II 投資活動によるキャッシュ・フロー						
有価証券の取得による支出	△ 9,500	△ 10,500	△ 14,100	△ 2,000	△ 1,000	△ 4,500
有価証券の償還による収入	8,200	11,300	15,100	4,000	500	1,500
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△ 6,149	△ 6,733	△ 3,585	△ 2,573	△ 2,242	△ 2,377
有形固定資産の撤去による支出	—	—	△ 94	△ 210	△ 59	△ 35
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	7	—	—	—	—	—
定期預金の預入による支出	△ 9,200	△ 7,600	△ 4,500	△ 7,800	△ 11,000	△ 8,500
定期預金の払戻による収入	7,700	8,300	4,800	9,312	8,500	11,003
預託金（預け金）の預入による支出	△ 4,500	△ 4,500	△ 3,600	△ 1,900	△ 2,100	△ 2,300
預託金（預け金）の返還による収入	5,500	4,500	3,600	1,900	2,100	2,300
施設費による収入	1,791	1,044	227	827	247	999
施設費の精算による返還金の支出	△ 179	△ 98	—	—	—	—
大学改革支援・学位授与機構への納付による支出	△ 2	—	—	—	—	—
小計	△ 6,332	△ 4,287	△ 2,152	1,556	△ 5,054	△ 1,910
利息の受取額	10	6	1	1	1	37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,323	△ 4,281	△ 2,151	1,557	△ 5,053	△ 1,873
III 財務活動によるキャッシュ・フロー						
長期借入れによる収入	2,985	2,690	646	1,273	1,017	362
大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済による支出	△ 1,230	△ 1,200	△ 1,176	△ 1,150	△ 1,082	△ 1,013
長期借入金の返済による支出	△ 631	△ 433	△ 509	△ 609	△ 670	△ 805
リース債務の返済による支出	△ 703	△ 836	△ 924	△ 1,006	△ 886	△ 951
小計	421	221	△ 1,963	△ 1,492	△ 1,621	△ 2,406
利息の支払額	△ 354	△ 330	△ 296	△ 246	△ 181	△ 123
財務活動によるキャッシュ・フロー	68	△ 109	△ 2,259	△ 1,738	△ 1,803	△ 2,529
IV 資金に係る換算差額	—	—	—	—	—	—
V 資金増加額(減少額)	△ 1,541	△ 1,055	234	4,435	△ 2,028	414
VI 資金期首残高	8,226	6,685	5,630	5,864	10,299	8,271
VII 資金期末残高	6,685	5,630	5,864	10,299	8,271	8,685

業務実施コスト計算書（平成26年度～令和元年度）

業務実施コスト計算書は、徳島大学を運営する上で納税者である国民の皆様が負担しているコスト情報を表示するものです。損益計算書に計上している経常費用から自己収入等の収益を控除したものに、損益計算書には計上されないコストを加味することにより、大学の運営に要した実質的な国民負担額を、より明確に示す事が出来ます。

(単位：百万円)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
I 業務費用						
(1)損益計算書上の費用	42,543	44,674	45,019	45,816	46,190	47,348
業務費	40,656	43,010	43,074	44,121	44,704	45,849
一般管理費	1,193	1,190	1,129	1,167	1,169	1,331
財務費用	354	330	298	241	180	139
雑損	0	0	3	2	1	11
臨時損失	340	143	515	286	135	20
(2)（控除）自己収入等	△ 29,546	△ 30,164	△ 30,869	△ 31,808	△ 32,896	△ 33,893
学生納付金収益	△ 4,389	△ 4,416	△ 4,473	△ 4,403	△ 4,340	△ 4,194
附属病院収益	△ 21,153	△ 21,349	△ 22,231	△ 23,262	△ 24,197	△ 25,669
受託研究等収益等	△ 1,665	△ 1,916	△ 1,706	△ 1,828	△ 2,022	△ 1,670
寄附金収益	△ 1,273	△ 1,519	△ 1,385	△ 1,334	△ 1,357	△ 1,432
資産見返負債戻入	△ 683	△ 706	△ 681	△ 644	△ 657	△ 620
財務収益	△ 7	△ 7	△ 1	△ 1	△ 1	0
雑益	△ 374	△ 251	△ 363	△ 298	△ 321	△ 308
臨時利益	△ 3	0	△ 28	△ 38	0	0
業務費用 合計	12,997	14,510	14,150	△ 31,808	13,293	13,455
II 損益外減価償却相当額	1,372	1,273	1,237	1,172	1,083	1,002
III 損益外減損損失相当額	—	—	14	—	0	200
IV 損益外利息費用相当額	1	1	2	2	2	2
V 損益外除売却差額相当額	△ 12	25	10	5	5	9
VI 引当外賞与増加見積額	9	17	△ 0	△ 4	8	△ 1
VII 引当外退職給付増加見積額	△ 533	507	△ 68	△ 754	△ 196	△ 135
VIII 機会費用	251	43	130	117	87	88
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	40	43	96	93	87	85
政府出資の機会費用	211	0	34	23	—	3
IX 国立大学法人等業務実施コスト	14,084	16,375	15,474	14,546	14,283	14,619

決算報告書（決算額）（平成26年度～令和元年度）

損益計算書は発生主義に基づき作成し、法人業務の運営状況を表す一方、決算報告書は現金主義、かつ、予算の区分で作成され、予算計画と対比して執行状況を表す書類です。運営資金の大部分が国からの財源措置で賄われるため、予算の区分による管理が求められています。

(単位：百万円)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
収入						
運営費交付金	13,742	12,723	12,672	12,887	12,604	13,025
施設整備費補助金	1,100	998	195	795	215	931
設備整備費補助金	151	187	46	—	—	—
補助金等収入	771	1,479	496	725	1,442	943
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	46	46	32	32	32	32
自己収入	25,797	25,733	27,216	27,885	28,751	30,140
授業料、入学科及び検定料収入	4,207	4,178	4,204	4,169	4,092	4,012
附属病院収入	20,989	20,993	22,284	23,056	23,997	25,528
雑収入	594	563	728	660	662	600
財産処分収入	7	—	—	—	—	—
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,104	3,441	3,121	3,424	3,744	3,884
引当金取崩	77	23	10	72	160	208
長期借入金収入	2,985	2,690	646	1,273	1,017	362
目的積立金取崩	—	179	—	—	5	11
前中期目標期間繰越積立金取崩	—	—	182	—	—	—
収入 合計	47,774	47,497	44,614	47,093	47,970	49,537
支出						
業務費	36,435	36,518	37,667	38,168	38,674	40,718
教育研究経費	16,164	16,322	16,017	16,272	15,776	16,286
診療経費	20,271	20,195	21,650	21,896	22,898	24,432
施設整備費	4,132	3,734	873	2,100	1,264	1,326
補助金等	921	1,655	540	702	1,424	920
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	3,179	3,485	3,126	3,288	3,464	3,238
長期借入金償還金	2,165	1,912	1,935	1,967	1,910	1,912
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	2	—	—	—	—	—
支出 合計	46,834	47,303	44,141	46,224	46,737	48,113
収入－支出	940	194	473	869	1,233	1,424

【巻末付録】マスコットキャラクター、コミュニケーションマークについて

1. 徳島大学マスコットキャラクター「とくぼん」

クラウドソーシングにより募集し、徳島大学学生および職員の最終選考を経て誕生した、徳島大学マスコットキャラクターの「とくぼん」です。

プロフィール

【名前】

とくぼん

【誕生日】

11月2日

【性格】

明るく、親しみやすい。

チャレンジ精神が旺盛だが、失敗することもあります。

【生い立ち】

徳島大学で生まれ、住み着いているタヌキです。

徳島大学が大好きで、学生と一緒に勉学に励む毎日を送っています。

【ひと言】

「徳島大学とともに人類の問題を解決することをミッションとし、これからの未来に向かって力強く歩んでいきます！」



徳島大学マスコットキャラクター
とくぼん

2. コミュニケーションマーク

徳島大学が長年培ってきた「進取の気風」をベースに、人が躍動し、個性的で未来に立ち向かう教育研究の場をイメージしました。また、5つの色は、それぞれ下記のような意味を込めています。

-  = 優れた専門性、人間性に富む人格形成の場
-  = 真理を探究し、自由な発想による研究
-  = 地域社会と世界を結ぶ知的ネットワークの拠点
-  = 徳島県の豊かな自然、眉山や城山など、都市の中の緑
-  = 吉野川をはじめ、潤いと恵みをもたらす水環境



使用した書体は、ローマ字の起源であるローマ時代、トラヤヌス帝の碑文を源にするTrajanであり、学問の歴史と大学の伝統、格調の高さを示しています。

左に位置するイラストレーションは、躍動感をイメージし、殻を破るような勢いと水のような流動性を表現しています。



【令和元事業年度(第16期) 財務報告2020】

発行：国立大学法人徳島大学財務部財務課決算係
〒770-8501 徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地
TEL：088（656）9960
FAX：088（656）7033
E-mail：zaikssac@tokushima-u.ac.jp
URL：https://www.tokushima-u.ac.jp
発行年月：令和2年11月